



今月新しく入りました。

●一般の本

／ペコロスの母に会いに行く（作＝岡野雄一）／カミカゼ（作＝永瀬隼介）／つむじダブル（作＝小路幸也、宮下奈都）／愛について（作＝白岩 玄）／冤罪と裁判（作＝今村 核）

●子どもの本

／かいけつゾロリのメカメカ大さくせん（作＝原ゆたか）／チャレンジミッケ⑨タイムトラベル（作＝ウォルター・ウィック）／まほうのコップ（作＝藤田千枝）／つくってあそぼう 保存食の絵本シリーズ（作＝こしみず まさみ）

中でもこの本が **オススメ** です。

日御子

作＝帚木蓬生



はるか昔、倭国の平和のために海を越え大陸をめざした人々がいた。それは、失われた歴史をつむぐ朝貢の旅。いまにつながる、この国のはじまり。使譯（通訳）一族に伝わる四つの教えが、国を和の心へと導く。金印の出土した「倭の奴国」から「邪馬台国」まで、「日本の始まり」を物語の形で活き活きと描いた、古代歴史ロマン小説。

言語小説集

作＝井上ひさし



えっ、まさか！？カギ括弧記号が恋に落ちる！？「括弧の恋」。文法的に意味をなさない台詞に、役者が狂わされていく「極刑」。方言に人生を捧げた方言学者が、傍若無人の男に方言で復讐を果たす「五十年ぶり」。ある日突然舌がもつれる青年駅員の悲哀を描いた「言語生涯」他。日本語で笑いを創り続けた著者の真骨頂というべき爆笑の名作。



海賊とよばれた男（上・下）

作＝百田尚樹

敗戦の夏、異端の石油会社『国岡商店』を率いる国岡鐵造は、なにもかも失い残ったのは借金のみ。そのうえ石油会社大手から排斥され売る油もない。しかし会社は社員ひとりたりともクビにせず、旧海軍の残油集めなどで湖口をしのぎながら、たくましく再生していく。20世紀の産業を興し、人を狂わせ、戦争の火種となった巨大エネルギー・石油。その石油を武器に変えて世界と闘った男とは何者なのか。



ふくびき

作＝くすのき しげのり

大好きなお母ちゃんにクリスマスプレゼントしようと、商店街に出かけた幼い姉と弟。でも、二人のおこづかいを合わせても何にも買えません。「そうや、福引きでハンドバッグを当てよう！」と思いついたきょうだいですが……。さあ、二人がお母ちゃんに贈った素敵なクリスマスプレゼントとは？ 町の人々の優しさが心にしみる絵本です。

